

認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会だより

“友よ”

リーバー フロイント

Lieber Freund

発行：認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会事務局

TEL 088-686-9999 FAX 088-686-9994

http://www.naruto-9.com/ E-mail : kanki@naruto-9.com

vol. 19

2019年8月25日発行

指揮 曾我 大介
管弦楽 徳島交響楽団
ソリスト 竹下 裕美 (ソプラノ)
小野 綾香 (アルト)
谷口 耕平 (テノール)
山田 大智 (バス)

合唱指導 頃安 利秀

合唱 認定NPO法人

鳴門「第九」を歌う会
全日本「第九を歌う会」連合会



初演101年目、新たな時代の幕開けにふさわしい第九演奏会

ベートーヴェン「第九」アジア初演より101年目、令和の時代になって初めての第38回「第九」演奏会が令和元年6月2日、鳴門市文化会館で盛大に開催されました。

全日本「第九を歌う会」連合会30周年記念となる今回は、沖縄県那覇市より「沖縄第九を歌う会」ほかが初参加され、米・ロサンゼルスL. A. Daikuは記念すべき10年目の参加となりました。また、三好市民第九合唱団と阿南第九の会は今回より全日本「第九を歌う会」連合会に加入し、NPO鳴門163名、全日本「第九を歌う会」46団体443名、計609名が舞台上に勢揃いしました。

会場は満員のお客様で、曾我大介氏のシャープで力強い指揮、11年目となる公開オーディションで選ばれた4人のソリストの豊かで美しい歌声、徳島交響楽団の一糸乱れぬアンサンブルに、609名の合唱が一丸となり、高らかな歓喜の歌が会場をふるわせました。

今回、次代を担う板東小学校5年生2名が合唱に参加し、ドイツとバンドーの友好の史実を伝えていきたいとの思いを込めて熱唱しました。また、徳島新聞に2年間連載した「第九永遠なり」の筆者・藤長英之記者も合唱に挑戦。第九の聖地で歌える喜びをかみしめました。

ドイツからお姉さんの応援にいらっしやったバローグ輝子さんは、「鳥肌がたつほど感動し、涙が出ました！

とても良かった！」と興奮気味に話してくれました。新たな歴史の幕開けにふさわしい素晴らしい演奏会となりました。

鳴門市市民会館でのアフター交流会も5年目を迎えました。「鳴門の物産お楽しみ抽選会」など新企画もお目見えし、第九仲間との楽しい交流もすっかり心に刻んでお土産に持って帰っていただいたことと思います。

最後になりましたが、本会を支えてくださっている会員及びボランティアの皆様・市職員の方々、出店で本会を盛り上げてくださった多くの関係の皆様にご心よりのお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。これからも鳴門の宝である「なるとの第九」を継承してまいりたいと思います。変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会

理事長 大塚 道子)



「沖縄第九を歌う会の皆さん。沖縄県からの参加は初めてです。演奏はもちろん、会員自らによる運営やあたたかきもてなしに感激し、「来年もぜひ来ます！」と熱く語ってくれました

マエストロのタクトに、高い集中力とステージマナーで応えた合唱団

シャープで的確なタクトで私達を導いてくださった指揮者の曾我大介氏。アマチュアの合唱団だからといって決して妥協することなく、テンポ感、ドイツ語の発音、母音の響きや音色など繰り返し指示が出されました。

休憩に入る前に、マエストロが合唱団に語りかけました。「リラックスして休憩してください。でも、おしゃべりは謹んで。そのエネルギーは演奏のためにとっておいてほしい。ステージは聖域です」——その言葉に、合唱団の気持ちがあぐつとひきまりました。それまでももちろん真剣に練習に取り組んでいたのですが、空気が変わったのを感じました。

↓「Laufet, Brüder…」男声と肩を組んでマエストロも熱唱



↑整然と並んで待機する合唱団



以後、練習時はもちろん、ステージ袖への整列・待機・登壇もほとんど私語もなく整然と。例年、「お静かに」のプラカードを手に600名を誘導する舞台スタッフが、「こんな素晴らしいマナーの合唱団は初めて!」と感嘆するほどでした。

合唱指導者・頃安利秀先生の「おいしい声、おいしい顔で!」という呼びかけに、体はリラックスしつつ、集中力は高く……。609名の意識が“みんなでいい演奏をするんだ”という一点に集中し、それが演奏に見事に結集されました。CDやDVDには記録されないけれど、長く記憶に残るであろう出来事でした。

笑顔はじけた アフター交流会

合唱団員が一人一役で準備から当日の運営、後片付けまで担うのは“鳴門の第九”ならでは。全国からお越しいただいた皆さんを心からもてなしたいという気持ちで、おもてなしもアップデートを重ねてきました。5年目となる鳴門市市民会館でのアフター交流会もそのひとつです。

演奏会の興奮さめやらぬ457名が集合し、16時30分よりアフター交流会がスタートしました。今年はNPO鳴門の合唱団員の家族等にも参加を募ったところ、17名の応募がありました。家族ぐるみで“なるとの第九”を応援していただき、感謝でいっぱいです。会場には今年も鳴門市内の有名店10店が出店してくださり、寿司、天ぷら、鯛塩ラーメンなど鳴門自慢の美味



↑大好評だったお楽しみ抽選会。フロイデ君もお手伝い

→「うたの広場NKB」が歌声を披露。鳴門第九の未来を担う子ども達です



また、新企画として「鳴門の物産お楽しみ抽選会」を開催。鳴門市や市内の事業者にご提供いただいた鳴門の物産計26品を、



↑阿波踊りで熱気は最高潮に

全国よりお越しの皆様にはプレゼントしました。泉理彦鳴門市長が抽選し、当選番号が読み上げられる度に会場から大きな歓声が上がりました。

フィナーレはもちろん会場全体で「第九」、そして阿波踊りです。飯原道代事務局長はじめ、常日頃から第九運営に関わっているメンバーがステージに上がり、頃安先生の指揮で熱唱しました。

「鳴門の第九はおもてなしも最高!」——あちこちから聞こえる声に、来年も頑張ろう!と誓ったのでした。

↓お揃いのTシャツのスタッフ。演奏会の成功をかみしめて歌いました





第九PRキャラクター誕生 その名も「フロイデ君」

来年のベートーヴェン生誕250年を前に大塚町の板東地区自治振興会が第九PRキャラクターを作成。演奏会当日、文化会館前でお披露目されました。ベートーヴェンをイメージした愛らしいフロイデ君は身長160cm。燕尾服をまとい、振ると夢が叶うと

いう指揮棒を手に登場すると、詰めかけた来場者から歓声が上がりました。フロイデ君はロボイーで来場者を迎え、記念撮影に応じるなど大人気でした。



前日のセレモニーでもご挨拶♪

2年にわたる連載が書籍に！ 鳴門第九のバイブルです

2016年5月から徳島新聞に計85回、2年にわたって連載された「第九永遠なり～鳴門初演100年」が書籍になりました。鳴門、会津若松はもとより、元捕虜の子孫など100人以上の関係者に取材をした労作で、今年の100周年記念事業の様子も掲載されています。鳴門で第九を歌うなら、ぜひ読んでいただきたい1冊です。演奏会当日は藤長英之記者によるサイン会も行われました。(発行：一般社団法人 徳島新聞社 B6判、316頁、税別1,200円、県内主要書店で販売)



カメラマンは見た！

万が一に備え、危機管理もしっかりと。避難訓練、誘導のシミュレーションも念入りに行いました



鳴門の第九は全員が一人一役。男性も実によく動きます。素敵な笑顔で「いらっしゃいませ！」



前日準備では色とりどりの第九Tシャツがユニフォーム。今年は第九Tシャツ完売しました。来年はお早めにお買い求めください。



ブラタモリ、ついに徳島に！！ 鳴門の第九が紹介されました



ドイツ兵の慰霊碑前で「歓喜の歌」を歌いました

NHKの人気番組「ブラタモリ」がついに徳島にやってきました。2008年番組スタート以来、徳島は未踏の地でした。1月に徳島市、鳴門市でロケが行われることとなり、鳴門「第九」を歌う会にも出演依頼が！ タモリさん達は鳴門公園～撫養街道～霊山寺を経由してドイツ村公園へ。板東俘虜収容所でのドイツ兵と地元住民との交流の歴史、第九初演のエピソードなどが紹介されました。合唱団は正装で登場し、タモリさん達の前で「歓喜の歌」を披露。ロケ終了後は、タモリさんと記念撮影もさせていただき、大喜びでした。

番組は3月9日(土)「阿波踊り」編、3月16日(土)「鳴門」編の2回に分けて放映されました。これで全都道府県制覇を達成。トリを鳴門で飾ることが出来、光栄でした。



100年前の感動を今に—— JASRAC音楽文化賞を受賞

初演100周年の最後に、またひとつ褒美をいただきました。音楽文化の発展に寄与した個人や団体の功績を顕正する第5回JASRAC音楽文化賞(日本音楽著作権協会主催)に、認定NPO法人鳴門「第九」を歌う会など3組が選ばれました。「ドイツ兵捕虜の遺族と交流するなど、100年前の公演の感動を時代を超え、国境を越えてよみがえらせている」と評価されました。2018年11月、東京都内で行われた贈呈式には亀井副理事長が出席、記念の盾などを受け取りました。



東京都内で行われた表彰式

活動の記録

第九を通じた音楽文化の普及、地域や全国の仲間との交流も私たちの大事な活動です。今年の活動の中から主なものをご紹介します。

県内研修

❖平成30年度総会&研修会

2018. 8/26 於：鳴門市健康福祉交流センター

真鍋美恵さん(ソプラノ)と近藤有香さん(ピアノ)によるコンサートを楽しみました。「ヨーロッパの調べ」と題して、ドイツリートやオペラのアリア、ラフマニノフのピアノ曲などを演奏。シューベルトとベートーヴェンの関わりなどのお話も興味深く、二人の紡ぎ出す美しいアンサンブルに時間を忘れて聞き入りました。



他団体の 第九演奏会への参加

❖「会津第九演奏会2018」に参加

2018. 9/24 於：福島県会津若松市・會津風雅堂



第九アジア初演100周年記念事業のフィナーレを飾ったのは、板東伊藤収容所長・松江豊寿さんのふるさと、会津若松市での演奏会。板東伊藤収容所での第九初演は松江所長を抜きにして語る事ができません。鳴門市と会津若松市は1999年より親善交流都市として交流を重ねており、演奏会にも互いに参加し合っています。

2018年は奇しくも戊辰戦争から150年にあたります。合唱王国・福島県らしく、指揮者・ソリストも地元出身者で揃え、全国より参加の合唱団を含む約280名が、会津市民オーケストラとともに、平和と人類愛のメッセージを力強く歌い上げました。鳴門からは亀井俊明副理事長はじめ33名が参加。「第九を通じて会津若松との交流をさらに発展させたい」と飯原道代事務局長は力強く語りました。

❖2018「かがわ第九」演奏会に参加

2018. 11/ 11 於：香川県高松市・レクザムホール

❖サントリー1万人の第九に参加

2018. 12/2 於：大阪府・大阪城ホール

❖第10回 阿南第九の会定期演奏会に参加

2019. 2/10 於：阿南市文化会館・夢ホール

その他行事

阿波銀行鳴門支店開設120周年を祝う歓喜の歌声



2019. 2/21 於：阿波銀行鳴門支店

阿波銀行鳴門支店がこのたび、支店開設120周年を迎えるにあたり、その栄えあるセレモニーに第九を演奏しました。頃安利秀先生の指揮、吉成み先生のピアノに合わせて21名による歌声が高らかに響くと、ロビーいっぱいのお客様から大きな拍手がわき起こりました。ロビーでは塩田や商店街など、鳴門の昔の風景を紹介する写真展も開催されていました。

コーラス9

❖第九の里コンサート 2018.7/28 於：鳴門市ドイツ館

親愛なるメルツェルさん、Hallelujah、第九ほか

❖第23回ドイチェスフェスト in なんと(2018年で終了)

2018.10/28 於：鳴門市ドイツ館

❖第41回鳴門市芸能祭

2018. 11/11 於：鳴門市文化会館

❖コーラス9 第13回演奏会「クリスマス・コンサート」

2018. 12/16 於：鳴門市ドイツ館

第1部はソリストによるクリスマスソングで華やかに。第2部はヘンデル作曲オラトリオ「メサイア」(抜粋)を演奏しました。指揮：山田啓明 ソプラノ：真鍋美恵 アルト：酒井美里 テノール：頃安利秀 バス：中山知彦
ピアノ：頃安三紀、平賀理絵、三村加奈
合唱指導：大井美弥子 合唱：コーラス9



この年報部

●100周年の節目が終わり、参加者が減るのでは…?演奏会のテンションが下がるのでは?……と心配していましたが、どこ吹く風。今年も最高に盛り上がりました!

●来年2020年はベートーヴェン生誕250年。スペシャルな企画で、楽聖のメモリアルイヤーを祝いましょう! 来年も忙しくなりそうです(笑)。 (広報委員一同)